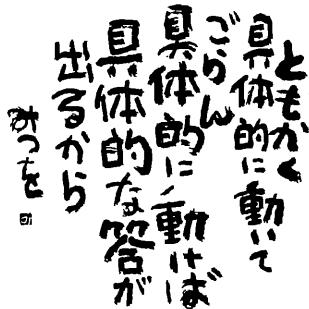


さくら第514号

令和4年 10月

さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7 Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp



## 『好きこそものの上手なれ』

「好きこそものの上手なれ」という諺を耳にしたことがあるでしょう。学校で学習する勉強や運動などでも、自分が楽しいと感じていることには集中して取り組みますが、イヤだな、やりたくないなー、好きじゃないと思うことには積極的に体が動かず、仕方なしにやるからよい結果を得ることができないようです。

好きなことに夢中になっているとアッという間に時間がたち、もうこんなにやっていたのか、それにしても疲れていないし気持ちよかったですという思いをしたことがあるでしょう。

楽しい時間はすぐに経つけれど、イヤな事、気のすすまない時はとても長く感じます。

仲良しと過ごす約束をすれば待ち遠しいですが、そうでない人との話には気がすまず何か用事ができて、合えなくなるといいにと思つたりもします。

ところで冒頭のことわざは450年余り前の桃山時代に豊臣秀吉の茶道の師として活躍した千利休(せんのりきゅう)が茶道のあり方について弟子に語ったことが由来といいます。

もどもとの句は、「器用さと 稽古と好きの そのうちで 好きこそものの 上手なりけれ」といいます。また、「上手には好きと器用と功績むと、この三つそろう人ぞ能くしる」があります。功を積むとはたゆまぬ研鑽・修行をいいます。

今から約2500年前の中国で孔子(こうし)の教えをその後に弟子がまとめた「論語・ろんご」のなかに、「これを知る者はこれを好む者にかなわず、これを好すものはこれを樂む者に

かなわない」といわれています。

これは、物事を知識として知っているだけの者は、これを愛好する者にはかなわない、さらに、これを愛好する者は楽しんでこれと一体になっている者にはおよばないという意味。

でも、好きでないことでもその中に少しでもおもしろそうだな、試しにやってみようか、などと思う所がないかさがしてみましょう。

最初はつまらなうだなと思うことでも、力いっぱいチャレンジしていくうちに、アレッ！おもしろうだな。ちょっとやってみるか。と興味をもつことがあります。チャレンジしてください。

「食わず嫌い」というたとえがあります。見た目が悪い、まずそうだ、今まで食べたことがないからやめておこうと悪いイメージが残っているかも知れませんが、思い切って食べてみると、好きになることがあります。

私はカリフラワーやアスパラを食べる気がせず避けていましたが、ある時、ものは試しとこわごわ口にすると、何とか食べられ、その後は好きになりました。

みなさんの中には、好きだから、おもしろそ  
うだから、楽しいみたいだからといろん  
な事にチャレンジしていることがあるで  
しょう。

ほかの人から見ればあの人はそんな事をなぜ楽しそうにやっているのか不思議と思うかも知れませんが、人に迷惑をかけなければ好きなことをやってみましょう。

ある3年男子は草花が好きで花の名前をとても多く知っています。どのような育て方をすればきれいな花が多く咲くのかを図鑑などでも調べ、時には家族と植物園にも行き知識を深めており、ヒマワリが一番好きと言います。

興味が増すとさらに調べるのでドンドンよい方向へと発展します。

時には体調が悪くなったりやる気の起きない時があるって、はやく元気になって好きなことを続けたいという思いが自信になります。

自信が増すと今まで苦手と思っていた事にも挑戦しようという前向きの気持ちが強くなり、元気と勇気がわき頑張るぞと前進します